

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500060
法人名	社会福祉法人エンゼル
事業所名	グループホームエンゼルなかがわら
所在地	愛媛県伊予郡松前町中川原168番地1
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者を自分の家族と同じように温かく接し、喜怒哀楽を共に味わえるよう日々の生活を援助している。利用者は自分で出来ることを確認し料理・掃除・洗濯など家事全般を職員とともにやっている。職員は常に話し合い、利用者本位での支援・寄り添ったケア・グループホーム独自の理念に沿った援助を行うよう心がけ、様々な習慣・行事を計画・実施している。70代から90代までの18名が一緒に生活することで教え学んだり、価値観・生活歴の違う方々を受け入れ理解しようとする姿が見られている。地域との触れ合いを大切に地域の祭りや文化祭にも参加している。今年の文化祭は作品を展示させてもらったり、カラオケに出場させてもらうなどした。毎年、地域の消防団の方々に協力していただき、避難訓練を実施している。住み慣れた松前町での生活を、その人らしく過ごせるよう援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯にある住宅地の中に建つ事業所は1階がデイサービス、2階がグループホームになっており、開設より5年目を迎える。「一人ひとりがその人らしく、いつも笑顔で楽しく」という理念を掲げ、利用者が居心地よく安心と楽しみのある生活が送れるよう支援している。開設当初より地域住民の協力を得ながら、地域に密着し、地域に頼られる事業所を目指して交流を積み重ねてきており、地元からの入居希望者が増えている。また、法人が運営する幼稚園行事に招待されることも多く、園児との交流は利用者の楽しみになっている。職員は利用者のペースを大切にしながら、一人ひとりの特技や能力が発揮できるよう支援すると共に、家族の要請に応じて、看護師2名と24時間医療体制をとる協力医との連携のもと、看取りケアを実施している。職員が問題意識を持ち、話し合いながらサービスの質の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームエンゼルなかがわら
(ユニット名)	ひまわりユニット
記入者(管理者)	
氏名	日根 潤一郎
評価完了日	平成29年1月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 家族や地域の方々との連携を深められるようホーム独自の理念を掲げ、入居者の状態に合わせた援助を行っている。理念を基にユニット会・全体職員会(月2回)等にて話し合いを持ち、援助に努めている。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの「一人ひとりがその人らしく、いつも笑顔で楽しく」という理念を大切に継承し、パンフレットに記載すると共に、共用空間に掲示して周知している。職員は、利用者が居心地よく安心と楽しみのある生活が送れるよう、利用者のペースを大切にしながら、一人ひとりの特技や能力が発揮できるよう支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区のお祭りや文化祭などの行事に参加したり、施設でのおもちつきに地域の方に案内し参加していただくなど、少しずつ地域とのつながりが増えていくように努めている。年1回夜間想定避難訓練には地域消防団が参加してくれている。</p> <p>(外部評価) 事業所では地域との交流を活動方針に掲げ、地域住民と様々な交流の機会を設けて近所付き合いを大切にしている。地区公民館で行われる文化祭に利用者の作品を展示して参加したり、近所の人が事業所の餅つきを手伝ってくれたり、地区のサロンを事業所で開催し近所の高齢者と交流して楽しんでいる。また、歌や踊り、詩吟等の多くのボランティアが訪れるほか、小・中学生や高校生の体験学習、法人が運営する幼稚園児との交流の機会も多い。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) スタッフ会・運営推進会議などを通して地域の役員・町の担当者と話し合い、交流が図れるような場を設けるよう話し合いを進めているが、まだ実行には至っていない。「認知症キャラバン・メイト」の講習を受け地域での講習を開催することで地域福祉の拠点となるよう計画している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催している。事業所での取り組み・テーマについて話し合いを実施し、各担当者・利用者・家族の要望、意見を聞いている。また家族・担当者からの意見を職員間で共有しサービスの向上に繋げていけるよう話し合い・実行している。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、区長、町職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、時期に応じたテーマを設定して話し合っている。管理者は、会議で出された家族の発言を職員に伝え、日常のケアについて考える機会にする等サービス向上に活かしている。充実した内容の議事録は、職員や法人代表者に回覧し共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 月に1度介護相談員の方が2名来所し、1～2時間ほど利用者・職員と交流を図っている。またグループホームの行事・施設全体行事にも来所して頂き、普段の利用者の姿を見ていただけるよう努めている。運営推進会議では松前町の職員にも参加いただき活動状況を報告している。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員や町担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。町職員とは良好な関係にあり、何かと相談に乗ってもらっており、研修会等にも参加し他事業所とも交流している。また、毎月訪れる介護相談員は民生委員を兼ねており、地区サロンを事業所で開催したり、正月に茶会を披露する等何かと助力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、廃止委員会を月に1度開催し、職員の意識向上を施設全体で取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束廃止委員会があり、定期的会合と研修を行いながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束についても認識しており、気がついた時はその都度注意し合って改善している。歩行が不安定でも歩きたがる利用者に対して、「座って下さい。」と言うことが多かったことを反省し、職員が見守りながら自由に歩くことを支援している。また、日中玄関は施錠せず自由に出入りできるようになっており、利用者の安全確保のため職員が見守りを行うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会・法人全体の会議等で虐待の有無についての報告を行っている。松前町主催の高齢者虐待防止関連法についての勉強会に参加し、制度への理解を深めるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム内掲示板に資料や相談窓口を掲示しているが、入居時等ご本人及び家族等に対する説明が十分に行えておらず、制度の活用推進ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項説明を十分に行い、家族・利用者と共に納得のいくまで話し合いを実施している。退所時には家族・利用者・その他の関係者と十分に話し合いバック体制を整え、介護添書の作成・援助計画書の添付などを行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームエレベーター前に苦情受付箱を設置し、月に一度介護相談員の方々に報告している。苦情が寄せられた場合はマニュアルに沿って速やかに対応・回答を行う。法人全体としても要望・苦情解決委員会を開催し、頂いた要望・苦情が反映できるようにしている。 (外部評価) 管理者は利用者支援には家族の協力が欠かせないと考えており、遠慮しないで何でも言ってほしいと伝え、信頼関係の構築に努めている。担当職員は毎月写真を添えた手紙を家族に送り、利用者の生活状況や表情を伝えている。また、年1回家族会を開催し、会食をはさんで、職員の演劇披露や利用者のカラオケ、家族に思い出話しをしてもらう等、家族間交流と思い出づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人側、かつ管理者との話し合いの場を持ち検討している。 自己申告書の活用・スタッフ会での要望・提案について書類を提出後、職員との話し合い検討・実施している。 (外部評価) 職員は毎月開催される職員会やユニット会で、意見や提案を出すことができている。法人では年2回職員に自己申告書を提出してもらい、希望の聞き取りを行って処遇や運営に反映させている。また、法人内・外で行われる研修にも力を入れており、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者はホームを訪問しては、職員に声掛けを実施し日々の業務についての報告を聞いている。年2回の自己申告書等により本人の希望・実績・個々の努力について把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を設け、職員を段階に応じて資格が確保できるよう援助し、個々のスキルアップに繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市町村の開催する研修にできる限り参加している。職員はグループホーム相互研修に申込み、職員の派遣・受け入れについて話し合いを進め実施している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込時、家庭等への訪問を行い、本人とゆっくり話す機会を設けている。体験入所などを実施し、会話や行動より悩み・不安などをくみ取るよう対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家庭への訪問・事業所への訪問時家族が困っていること・求めていることを聞き出し、受け入れられるよう対策を検討している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人・家族に最も必要なことを見極め、事業所全体・他業種の方々の意見を仰ぎ、幅広い視野から対応を検討していくよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理作りを一緒にしたり、行事の作法等についての助言を頂いたりすることで喜怒哀楽を共にしている。利用者に温かく接し、学んだり支えあったりしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の暮らしや生き方を理解・尊重することで、家族と情報を共有し、信頼関係を築いていく。行事等には職員と一緒に参加して頂き、喜怒哀楽を共にし、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。年に一度家族交流会を開催し、家族・職員・利用者の関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との繋がりを大切にし交流する機会を多く持つようにしている。馴染みの方々との連絡・交流が切れないように通信・手紙などを活用している。 (外部評価) 職員は、馴染みの人や場所について入居時に情報収集をすると共に、日常の会話の中で聞き取ったことを記録に残して共有している。近所から入居する利用者が増えており、初詣は近くの馴染みの神社へ行ったり、散歩の途中で自宅に立ち寄る等している。誕生日には前職場までドライブして記念撮影をして帰ったこともある。また、家族の協力を得て墓参りに行ったり、職員が付き添って夫の葬儀に参列する等の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で話し合えるような話題を提供したり、料理や行事への参加を促している。常に見守りを行い、トラブルになりそうな場合は、職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同施設の他事業所を利用される方には、定期的に訪問し、親しい関係を維持できるよう努めている。他施設・家庭に戻られる方には家族・利用者が孤立せず、様々なサービスが受けられるよう情報の提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の障害が進むにつれて変化があり、本人の意向が把握出来難いこともある。職員が利用者と深く係わることで、利用者の意向をくみ取れるように努めている。また家族交流会で利用者の状態を説明し、家族・利用者の意向を話し合う機会を設けている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの思いや意向を把握するためコミュニケーションの重要性を認識しており、入浴時等ゆったりと過ごせる機会を利用して、利用者の話しを聴くよう努めている。思いを表すことが困難な利用者には表情や態度から推測するよう努め、知り得た思いや意向は介護計画に盛り込んで実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や家族面会時・職員との談話の中で、生活歴・馴染みの暮らし方について話を伺っている。また現状調査をファイルにすることで職員全員が把握でき、いつでも閲覧できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者及び家族と話し合い、要望・希望を取り入れながら、介護計画を作成している。月に1度のスタッフ会で利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、意見を出し合いながらカンファレンスを行い、内容の共有を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者及び家族と話し合い、要望・希望を取り入れながら、介護計画を作成している。月に1度のスタッフ会で利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、意見を出し合いながらカンファレンスを行い、内容の共有を図っている。</p> <p>(外部評価) 計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、職員が話し合っ て完成させており、利用者が持っている可能性やプラス面に 焦点を当てて作成するよう考慮している。毎月行われるカン ファレンスでモニタリングを実施し、3か月に1回、状態の 変化がある場合はその都度介護計画の見直しを行っている。 介護計画は家族面会時に説明して交付しており、来ることが できない家族に対しては家庭を訪問して丁寧に説明してい る。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別にファイルを作成し、日中は黒、夜間帯は赤で記録し誰が見ても分かりやすいように日々の現状を記録している。また連絡ノートを活用したり、口頭での申し送りを徹底し情報伝達が確実に出来るようにしている。介護計画については、毎月1回のスタッフ会にて確認・評価を行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度開催している運営推進会議に参加していただいている。地域包括支援センターの職員に意見を伺ったりしているが、まだ実際に他のサービスを利用するには至っていない。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 毎月介護相談員の来所・消防訓練等を実施している。また学生やその他ボランティア等の受け入れ、近隣の幼稚園・小、中学校などとの交流を行うことで広がりのある生活が出来るよう計画している。現在北伊予中学3年生との交流が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に入居者・家族等の希望を聞いている。契約している かかりつけ医院と電話やメールで相談が出来るようになって いる。また必要時には往診も可能である。 (外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を確認し、希望するかかりつけ 医を継続して受診することができる。協力医2名は24時間 体制をとって訪問診療を行っているため、入居時に協力医に 変更する利用者が多い。歯科の往診も受けられるが、近くの 歯科医院に職員が付き添って通院している。専門科外来を受 診する際は家族が付き添っており、健康や生活情報を持って 行ってほしい、医師と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護職員2名と連携を取りながら利用者の健康状態に ついて支援している。夜間の急変についても2名の看護職員 が対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはこまめに病院(担当医)や家族と連絡を取り、早 期退院のための話し合いや協力を行っている。利用者が安心 して病院で過ごせるよう頻回にお見舞いに伺い、精神的安 静が図れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の今後の重度化・終末期の在り方について、家族・利 用者の意向をお聞きし文書にて確認した。かかりつけ医とも 話し合いを行い、グループホームとしての指針を決定した。 マニュアルも作成し職員の情報共有に努めている。 (外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に終末期ケアについて 利用者と家族に説明しているが、その時にならなければわか らないという意見が多く、重度化した場合に医師と家族、職 員が話し合って意向の確認を行っている。事業所には看護師 2名が配属され、協力医と連携しながら緊急時対応を行って いる。職員は利用者との親密な関係になっており、最期まで住 み慣れた事業所で過ごしてほしいと考え、今までに3名の方 の看取りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命救急講習を母体施設と共に職場内研修にて実施している。勉強会も不定期ではあるが職員会で実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人として半年に1度消防署による日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。(H28年11月27日消防署・地域の消防団の方々を迎え、夜間想定の実施済)地域の消防団との協力が得られた。今後は地域との連携を図り、施設が災害時の地域の拠点となる様話し合いを進めていく。独自の災害マニュアルを作成している。 (外部評価) 年2回日中と夜間を想定し、地震と火災同時想定で避難訓練を行っている。訓練には地元消防団25名が参加しており、施設内視察を含め協力体制を構築している。大災害時は地域の福祉避難所として町と協定を結んでおり、受け入れ体制について話し合っている。また、備蓄品を完備し、賞味期限について定期的に点検している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重・威厳が守れるように配慮し、温かくゆっくりとした口調で声掛けするようにしている。居室に入る際には必ずノックを行い、本人の了解を得てから入室するようにしている。記録に関しては個人名を記載したりせず、プライバシーに配慮している。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。特に言葉遣いへの配慮を怠らないよう注意しており、呼称については、姓にさん付けで呼び、過度な馴れ合いにならないよう留意している。また、個人情報に関する内部研修を実施して、取り扱いに注意している。入浴時同性介助を希望する利用者には、職員を交代する等して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活において自己決定を尊重しており、本人の希望や意見を取り入れている。声掛けも決めつけるようなことをせず、利用者に納得・決定していただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事・1日の大まかな日課は決まっているが、毎朝の健康状態を把握したり、本人の希望を聞くことで外出などを適宜行えるような体制をとっている。職員体制・本人の希望があれば近くの商店へ買い物に行くこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と相談し定期的に美容院を利用している。毎朝モーニングケアを実施し、清潔保持に努めている。衣類は本人と一緒に確認しながら選び、季節に応じた身だしなみ・おしゃれができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者とともに買い物・献立作成・調理を出来る限り行っている。入居者・家族の意見を参考にし、好物の料理・誕生日料理・季節の行事食等の調理を行っている。会話や音楽を取り入れ楽しい時間を過ごしていただいている。	
			(外部評価) 献立は職員が交代で作成し、定期的に法人の管理栄養士が栄養チェックをしている。夜勤者が冷蔵庫を確認して食材を発注し、ユニット毎で調理をしている。生魚が苦手な人は別メニューを考えたり、食欲が低下している利用者には好物の柔らかいパンを用意するなど、柔軟に対応している。正月おせち料理や敬老の日の赤飯、誕生日当日はケーキを買って皆で祝う等行事食を楽しんでいる。外食に行けなくなった人のため、回転寿司で出前を取ることもあり、好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや食事量を把握し、食事摂取量・水分摂取量のチェック表を活用しながら十分な栄養・水分がとれるよう配慮している。その日の健康状態・摂取状況に応じて食事形態などを工夫し支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い見守り・介助している。就寝時には義歯の洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄リズムを把握し活用している。他利用者に配慮しながら声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の失敗がないようにしている。	
			(外部評価) トイレ入り口には大きなトイレ表示が取り付けられ、場所が分かりやすいよう工夫されており、トイレ内には、温度変化を避けるためヒーターが設置されている。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、3か所あるトイレで排泄できるよう支援している。夜間もナースコールで呼ばれるとトイレ誘導を行っている。重介護の利用者が増えているが、テープ式おむつを使用している利用者は少なく、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で排便を確認している。排便がない場合は水分摂取・ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取・散歩などの適宜な運動、個々に合った下剤などを主治医と相談しながら排便コントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日お湯を沸かし、健康状態に異常のない方は入浴できるようにしている。マンツーマン入浴を行い、入浴剤の使用や季節浴（ゆず・菖蒲など）を行っている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週2～3回を基本に入浴することができる。職員は重度の利用者にも湯船にゆったり浸かってほしいと考え、福祉用具を活用して二人体制で介助を行っている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫する等して、無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴時間を利用者に合わせる配慮をしたり、入浴中はゆっくり話しを楽しむようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者全員ほぼ良眠している。夜間眠れない方には日中居室で休息していただいたり、その方に合わせた生活時間（食事・入浴）を過ごしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルすることで職員全員が把握できるようにしている。服薬時には本人確認・薬の裏の名前確認を行い、誤飲がないようにしている。薬はスタッフルームにて保管・管理している。利用者の症状の変化については、かかりつけ医の支持を仰ぎ、服薬支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族・ご本人より趣味・生活歴などを聞き、楽しみごと、気晴らしができるよう個別に支援している。料理や花、野菜の栽培・水やりなど一人ひとりに役割を持っていただき、張り合いのある日々を送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天候を考慮しながら園庭、近隣への散歩を実施している。買い物の同行など個々の希望に応じた外出を行っている。日常の会話の中で個々の希望を聞き出し、ドライブや外食など要望に応じた計画・実施ができています。 (外部評価) 気候の良い時期には、車いすで移動する利用者も一緒に事業所周辺を散歩したり、1階デイサービス利用者と一緒に菜園の水遣り等をして野菜の成長を楽しみにしている。また、福祉車輛を使用して梅やツツジ等季節の花々を見物したり、大型スーパーへの買い物や法人の幼稚園まで行って行事に参加するなど、様々な機会があり外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設の方針として預り金等の現金を扱わないようにしている。家族の同意のもと小銭入れに少量の現金を持たれたり、買い物時や商品納入時にお釣りの計算をしていただいたりしてお金の大切さを理解していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙の返事などは援助を最低限に抑えて出来る限り本人に行って頂くようにしている。はがきや封書など必要物品は利用者とともに用意するよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者が集まるホール、廊下にソファを用意し、好きなどでテレビを見たり話ができるように配置している。冷暖房等の温度調整・カーテンの開閉による日差しの調整を行っている。季節行事にかかわる作品を展示したりして生活感・季節感を取り入れている。トイレ等の混乱を招かないよう様々な言葉での表記を行っている。</p> <p>(外部評価) ユニット入り口を入るとオール電化のアイランド式キッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられている。利用者は調理の音や匂いを感じながら、思い思いの場所でくつろぐことができる。訪問時はお気に入りの場所でくつろぐ人や医療マッサージ器を使用する利用者を見かけた。壁には節分のクラフト作品や行事写真が飾られていたり、めだかの水槽が置かれている。ベランダに置かれたプランターで野菜を栽培しており、階下にはデイサービス利用者と一緒に世話をしている菜園がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホール内・廊下にソファ・丸テーブルを配置し、利用者同士・家族との談話が持てる居場所を確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた生活用品を自由に持ち込んで頂き家庭的な雰囲気作りを心掛けている。また写真や趣味の物を飾ることで心地よく過ごしていただけるよう援助している。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコンと電動ベッド、収納棚、ナースコールが備えつけられている。利用者は自宅から整理ダンスやスタンドハンガー、テレビ、ラジカセを持ち込んで居心地よく過ごせるよう配置している。管理者はアルバムを持ち込むよう奨めており、分厚く思いでの詰まったアルバムを職員も見て利用者と一緒に懐かしんでいる。また、家族写真や日本人形等を飾ったり、日記帳やオセロゲーム、囲碁も置かれていて暮らしの様子が伝わってくる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ・お風呂など明確に掲示し、混乱を招かないよう配慮している。ベランダ・他事業所への入り口を開閉し自由に入力できるようにしたり、その人に応じた手すり・安全な家具の配置を検討し、自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500060
法人名	社会福祉法人エンゼル
事業所名	グループホームエンゼルなかがわら
所在地	愛媛県伊予郡松前町大字中川原165番地1
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者を自分の家族と同じように温かく接し、喜怒哀楽を共に味わえるよう日々の生活を援助している。利用者は自分で出来ることを確認し料理・掃除・洗濯など家事全般を職員とともにやっている。職員は常に話し合い、利用者本位での支援・寄り添ったケア・グループホーム独自の理念に沿った援助を行うよう心がけ、様々な習慣・行事を計画・実施している。70代から90代までの18名が一緒に生活することで教え学んだり、価値観・生活歴の違う方々を受け入れ理解しようとする姿が見られている。地域との触れ合いを大切に地域の祭りや文化祭にも参加している。今年の文化祭は作品を展示してもらったり、カラオケに出場させてもらうなどした。毎年、地域の消防団の方々に協力していただき、避難訓練を実施している。住み慣れた松前町での生活を、その人らしく過ごせるよう援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯にある住宅地の中に建つ事業所は1階がデイサービス、2階がグループホームになっており、開設より5年目を迎える。「一人ひとりがその人らしく、いつも笑顔で楽しく」という理念を掲げ、利用者が居心地よく安心と楽しみのある生活が送れるよう支援している。開設当初より地域住民の協力を得ながら、地域に密着し、地域に頼られる事業所を目指して交流を積み重ねてきており、地元からの入居希望者が増えている。また、法人が運営する幼稚園行事に招待されることも多く、園児との交流は利用者の楽しみになっている。職員は利用者のペースを大切にしながら、一人ひとりの特技や能力が発揮できるよう支援すると共に、家族の要請に応じて、看護師2名と24時間医療体制をとる協力医との連携のもと、看取りケアを実施している。職員が問題意識を持ち、話し合いながらサービスの質の向上を目指している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームエンゼルなかがわら

(ユニット名) あじさいユニット

記入者(管理者)

氏名 日根 潤一郎

評価完了日

平成29年1月15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家族や地域の方々との連携を深められるようホーム独自の理念を掲げ、入居者の状態に合わせた援助を行っている。理念を基にユニット会・全体職員会(月2回)等にて話し合いを持ち、援助に努めている。	
			(外部評価) 開設当初からの「一人ひとりがその人らしく、いつも笑顔で楽しく」という理念を大切に継承し、パンフレットに記載すると共に、共用空間に掲示して周知している。職員は、利用者が居心地よく安心と楽しみのある生活が送れるよう、利用者のペースを大切にしながら、一人ひとりの特技や能力が発揮できるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区のお祭りや文化祭などの行事に参加したり、施設でのおもちつきに地域の方に案内し参加していただくなど、地域とのつながりが増えていくように努めている。年1回夜間想定避難訓練には地域消防団が参加してくれている。	
			(外部評価) 事業所では地域との交流を活動方針に掲げ、地域住民と様々な交流の機会を設けて近所付き合いを大切にしている。地区公民館で行われる文化祭に利用者の作品を展示して参加したり、近所の人が事業所の餅つきを手伝ってくれたり、地区のサロンを事業所で開催し近所の高齢者と交流して楽しんでいる。また、歌や踊り、詩吟等の多くのボランティアが訪れるほか、小・中学生や高校生の体験学習、法人が運営する幼稚園児との交流の機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) スタッフ会・運営推進会議などを通して地域の役員・町の担当者と話し合い、交流が図れるような場を設けるよう話し合いを進めているが、まだ実行には至っていない。「認知症キャラバン・メイト」の講習を受け地域での講習を開催することで地域福祉の拠点となるよう計画している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一度開催している。事業所での取組み・テーマについて話し合いを実施し、各担当者・利用者・家族の要望、意見を聞いている。また家族・担当者からの意見を職員間で共有しサービスの向上に繋げていけるよう話し合い・実行している。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、区長、町職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者状況や活動報告のほか、時期に応じたテーマを設定して話し合っている。管理者は、会議で出された家族の発言を職員に伝え、日常のケアについて考える機会にする等サービス向上に活かしている。充実した内容の議事録は、職員や法人代表者に回覧し共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に松前町の職員に出席いただき、事業所の実情、ケアサービスの取組みについて報告している。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員や町担当課職員は運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、助言等を行っている。町職員とは良好な関係にあり、何かと相談に乗ってもらっており、研修会等にも参加し他事業所とも交流している。また、毎月訪れる介護相談員は民生委員を兼ねており、地区サロンを事業所で開催したり、正月に茶会を披露する等何かと助力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、廃止委員会を月に1度開催し、職員の意識向上を施設全体で取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束廃止委員会があり、定期的会合と研修を行いながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束についても認識しており、気がついた時はその都度注意し合って改善している。歩行が不安定でも歩きたがる利用者に対して、「座って下さい。」と言うことが多かったことを反省し、職員が見守りながら自由に歩くことを支援している。また、日中玄関は施錠せず自由に出入りできるようになっており、利用者の安全確保のため職員が見守りを行うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ会・法人全体の会議等で虐待の有無についての報告を行っている。全体職員会において虐待、適切ではないケアについて考える機会を持ち、理解を深めるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ホーム内掲示板に資料や相談窓口を掲示しているが、入居時等ご本人及び家族等に対する説明が十分に行えておらず、制度の活用推進ができていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項説明を十分に行い、家族・利用者と共に納得のいくまで話し合いを実施している。退所時には家族・利用者・その他の関係者と十分に話し合いバック体制を整え、介護添書の作成・援助計画書の添付などを行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームエレベーター前に苦情受付箱を設置し、月に一度介護相談員の方々に報告している。苦情が寄せられた場合はマニュアルに沿って速やかに対応・回答を行う。法人全体としても要望・苦情解決委員会を開催し、頂いた要望・苦情が反映できるようにしている。 (外部評価) 管理者は利用者支援には家族の協力が欠かせないと考えており、遠慮しないで何でも言ってほしいと伝え、信頼関係の構築に努めている。担当職員は毎月写真を添えた手紙を家族に送り、利用者の生活状況や表情を伝えている。また、年1回家族会を開催し、会食をはさんで、職員の演劇披露や利用者のカラオケ、家族に思い出話しをしてもらう等、家族間交流と思い出づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人側、かつ管理者との話し合いの場を持ち検討している。 自己申告書の活用・スタッフ会での要望・提案について書類を提出後、職員との話し合い検討・実施している。 (外部評価) 職員は毎月開催される職員会やユニット会で、意見や提案を出すことができている。法人では年2回職員に自己申告書を提出してもらい、希望の聞き取りを行って処遇や運営に反映させている。また、法人内・外で行われる研修にも力を入れており、職員は意欲的に研修に励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者はホームを訪問しては、職員に声掛けを実施し日々の業務についての報告を聞いている。年2回の自己申告書等により本人の希望・実績・個々の努力について把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を設け、職員を段階に応じて資格が確保できるよう援助し、個々のスキルアップに繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市町村の開催する研修にできる限り参加している。管理者は「グループホーム管理者交流会」などに参加し、他グループホーム管理者との交流を図っている。職員はグループホーム相互研修に申込み、職員の派遣・受け入れについて話し合いを進め実施している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込時、家庭への訪問を行い、本人とゆっくり話す機会を設けている。体験入所などを実施し、会話や行動より悩み・不安などをくみ取る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家庭への訪問・事業所への訪問時家族が困っていること・求めていることを聞き出し、受け入れられるよう対策を検討している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人・家族に最も必要なことを見極め、事業所全体・他業種の方々の意見を仰ぎ、幅広い視野から対応を検討していくよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理作りを一緒にしたり、行事の作法等についての助言を頂いたりすることで喜怒哀楽を共にしている。利用者に温かく接し、学んだり支えあったりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の暮らしや生き方を理解・尊重することで、家族と情報を共有し、信頼関係を築いていく。行事等には職員と一緒に参加して頂き、喜怒哀楽を共にし、家族と一緒に利用者を支えていくようにしている。年に一度家族交流会を開催し、家族・職員・利用者の関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との繋がりを大切に交流する機会を多く持つようになっている。馴染みの方々との連絡・交流が切れないように通信・手紙などを活用している。 (外部評価) 職員は、馴染みの人や場所について入居時に情報収集すると共に、日常の会話の中で聞き取ったことを記録に残して共有している。近所から入居する利用者が増えており、初詣は近くの馴染みの神社へ行ったり、散歩の途中で自宅に立ち寄る等している。誕生日には前職場までドライブして記念撮影をして帰ったこともある。また、家族の協力を得て墓参りに行ったり、職員が付き添って夫の葬儀に参列する等の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士で話し合えるような話題を提供したり、料理や行事への参加を促している。常に見守りを行い、トラブルになりそうな場合は、職員が間に入り孤立しないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同施設の他事業所を利用される方には、定期的に訪問し、親しい関係を維持できるよう努めている。他施設・家庭に戻られる方には家族・利用者が孤立せず、様々なサービスが受けられるよう情報の提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の障害が進むにつれて変化があり、本人の意向が把握出来難いこともある。職員が利用者と深く係わることで、利用者の意向をくみ取れるように努めている。また家族交流会で利用者の状態を説明し、家族・利用者の意向を話し合う機会を設けている。	
			(外部評価) 職員は利用者一人ひとりの思いや意向を把握するためコミュニケーションの重要性を認識しており、入浴時等ゆったりと過ごせる機会を利用して、利用者の話しを聴くよう努めている。思いを表すことが困難な利用者には表情や態度から推測するよう努め、知り得た思いや意向は介護計画に盛り込んで実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時や家族面会時・職員との談話の中で、生活歴・馴染みの暮らし方について話を伺っている。また現状調査をファイルにすることで職員全員が把握でき、いつでも閲覧できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの利用者に関わる中で、生活リズム・心身状態の把握・「出来ること、出来そうなこと」の把握に努め、職員全員が情報を共有するよう連絡ノートを活用、スタッフ会での話し合いを進めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族と話し合い、要望・希望を取り入れながら、介護計画を作成している。月に1度のスタッフ会で利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、意見を出し合いながらカンファレンスを行い、内容の共有を図っている。	
			(外部評価) 計画作成担当者が介護計画の原案を作成し、職員が話し合っ て完成させており、利用者が持っている可能性やプラス面に 焦点を当てて作成するよう考慮している。毎月行われるカン ファレンスでモニタリングを実施し、3か月に1回、状態の 変化がある場合はその都度介護計画の見直しを行っている。 介護計画は家族面会時に説明して交付しており、来ることが できない家族に対しては家庭を訪問して丁寧に説明してい る。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを作成し、日中は黒、夜間帯は赤で記録し誰が見ても分かりやすいように日々の現状を記録している。また連絡ノートを活用したり、口頭での申し送りを徹底し情報伝達が確実に出来るようにしている。介護計画については、毎月1回のスタッフ会にて確認・評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1度開催している運営推進会議に参加していただいている。地域包括支援センターの職員に意見を伺ったりしているが、まだ実際に他のサービスを利用するには至っていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎月介護相談員の来所・消防訓練等を実施している。また学生やその他ボランティア等の受け入れ、近隣の幼稚園・小、中学校などとの交流を行うことで広がりのある生活が出来るよう計画している。現在北伊予中学3年生との交流が図られている。地域の祭りや文化祭にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に入居者・家族等の希望を聞いている。契約している かかりつけ医院と電話やメールで相談が出来るようになって いる。また必要時には往診も可能である。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の意向を確認し、希望するかかりつけ 医を継続して受診することができる。協力医2名は24時間 体制をとって訪問診療を行っているため、入居時に協力医に 変更する利用者が多い。歯科の往診も受けられるが、近くの 歯科医院に職員が付き添って通院している。専門科外来を受 診する際は家族が付き添っており、健康や生活情報を持って 行ってもらい、医師と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常勤の看護職員2名と連携を取りながら利用者の健康状態に ついて支援している。夜間の急変についても2名の看護職員 が対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはこまめに病院(担当医)や家族と連絡を取り、早 期退院のための話し合いや協力を行っている。利用者が安心 して病院で過ごせるよう頻回にお見舞いに伺い、精神的安 静が図れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の今後の重度化・終末期の在り方について、家族・利 用者の意向をお聞きし文書にて確認している。かかりつけ医 とも話し合いを行い、サービス担当者会議を開催し、グル ープホームとしての指針を決定したている。 マニュアルも作成し職員の情報共有に努めている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に終末期ケアについて 利用者と家族に説明しているが、その時にならなければわか らないという意見が多く、重度化した場合に医師と家族、職 員が話し合っ意向の確認を行っている。事業所には看護師 2名が配属され、協力医と連携しながら緊急時対応を行っ ている。職員は利用者と親密な関係になっており、最期まで住 み慣れた事業所で過ごしてほしいと考え、今までに3名の方 の看取りを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命救急講習を母体施設と共に職場内研修にて実施している。勉強会も不定期ではあるが職員会で実施している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人として半年に1度消防署による日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。(H28年11月27日消防署・地域の消防団の方々を迎え、夜間想定の実施済)地域の消防団との協力が得られた。今後は地域との連携を図り、施設が災害時の地域の拠点となる様話し合いを進めていく。独自の災害マニュアルを作成している。 (外部評価) 年2回日中と夜間を想定し、地震と火災同時想定で避難訓練を行っている。訓練には地元消防団25名が参加しており、施設内視察を含め協力体制を構築している。大災害時は地域の福祉避難所として町と協定を結んでおり、受け入れ体制について話し合っている。また、備蓄品を完備し、賞味期限について定期的に点検している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重・威厳が守れるように配慮し、温かくゆっくりとした口調で声掛けするようにしている。居室に入る際には必ずノックを行い、本人の了解を得てから入室するようにしている。記録に関しては個人名を記載したりせず、プライバシーに配慮している。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。特に言葉遣いへの配慮を怠らないよう注意しており、呼称については、姓にさん付けで呼び、過度な馴れ合いにならないよう留意している。また、個人情報に関する内部研修を実施して、取り扱いに注意している。入浴時同性介助を希望する利用者には、職員を交代する等して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活において自己決定を尊重しており、本人の希望や意見を取り入れている。声掛けも決めつけるようなことをせず、利用者に納得・決定していただくようにしている。障害が進むにつれ、入居者自身が選ぶことが日常的に少なくなっている方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事・1日の大まかな日課は決まっているが、毎朝の健康状態を把握したり、本人の希望を聞くことで外出などを適宜行えるような体制をとっている。職員体制・本人の希望があれば近くの商店へ買い物に行くこともある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と相談し定期的に美容院を利用している。毎朝モーニングケアを実施し、清潔保持に努めている。衣類は本人と一緒に確認しながら選び、季節に応じた身だしなみ・おしゃれができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者とともに買い物・献立作成・調理を出来る限り行っている。入居者・家族の意見を参考にし、好物の料理・誕生日料理・季節の行事食等の調理を行っている。会話や音楽を取り入れ楽しい時間を過ごしていただいている。 (外部評価) 献立は職員が交代で作成し、定期的に法人の管理栄養士が栄養チェックをしている。夜勤者が冷蔵庫を確認して食材を発注し、ユニット毎で調理をしている。生魚が苦手な人は別メニューを考えたり、食欲が低下している利用者には好物の柔らかいパンを用意するなど、柔軟に対応している。正月おせち料理や敬老の日の赤飯、誕生日当日はケーキを買って皆で祝う等行事食を楽しんでいる。外食に行けなくなった人のため、回転寿司で出前を取ることもあり、好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の好みや食事量を把握し、食事摂取量・水分摂取量のチェック表を活用しながら十分な栄養・水分がとれるよう配慮している。その日の健康状態・摂取状況に応じて食事形態などを工夫し支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い見守り・介助している。就寝時には義歯の洗浄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄リズムを把握し活用している。他利用者に配慮しながら声掛け・トイレ誘導を行い、排泄の失敗がないようにしている。	
			(外部評価) トイレ入り口には大きなトイレ表示が取り付けられ、場所が分かりやすいよう工夫されており、トイレ内には、温度変化を避けるためヒーターが設置されている。職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、3か所あるトイレで排泄できるよう支援している。夜間もナースコールで呼ばれるとトイレ誘導を行っている。重介護の利用者が増えているが、テープ式おむつを使用している利用者は少なく、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表で排便を確認している。排便がない場合は水分摂取・ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取・散歩などの適宜な運動、個々に合った下剤などを主治医と相談しながら排便コントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日お湯を沸かし、健康状態に異常のない方は入浴できるようにしている。マンツーマン入浴を行い、入浴剤の使用や季節浴（ゆず・菖蒲など）を行っている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週2～3回を基本に入浴することができる。職員は重度の利用者にも湯船にゆったり浸かってほしいと考え、福祉用具を活用して二人体制で介助を行っている。入浴が苦手な利用者には声かけを工夫する等して、無理強いすることなく入浴ができるよう支援している。入浴時間を利用者に合わせる配慮をしたり、入浴中はゆっくり話しを楽しむようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者全員ほぼ良眠している。夜間眠れない方には日中居室で休息していただいたり、その方に合わせた生活時間（食事・入浴）を過ごしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬表を作成し、ファイルすることで職員全員が把握できるようにしている。服薬時には本人確認・薬の裏の名前確認を行い、誤飲がないようにしている。薬はスタッフルームにて保管・管理している。利用者の症状の変化については、かかりつけ医の支持を仰ぎ、服薬支援を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族・ご本人より趣味・生活歴などを聞き、楽しみごと、気晴らしができるよう個別に支援している。料理や花、野菜の栽培・水やりなど一人ひとりに役割を持っていただき、張り合いのある日々を送れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天候を考慮しながら園庭、近隣への散歩を実施している。買い物の同行など個々の希望に応じた外出を行っている。日常の会話の中で個々の希望を聞き出し、ドライブや外食など要望に応じた計画・実施ができています。	
			(外部評価) 気候の良い時期には、車いすで移動する利用者も一緒に事業所周辺を散歩したり、1階デイサービス利用者と一緒に菜園の水遣り等をして野菜の成長を楽しみにしている。また、福祉車輛を使用して梅やツツジ等季節の花々を見物したり、大型スーパーへの買い物や法人の幼稚園まで行って行事に参加するなど、様々な機会があり外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設の方針として預り金等の現金を扱わないようにしている。家族の同意のもと小銭入れに少量の現金を持たれたり、買い物時や商品納入時にお釣りの計算をさせていただいたりしてお金の大切さを理解していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙の返事などは援助を最低限に抑えて出来る限り本人に行って頂くようにしている。家族に電話することによって気持ちが落ち着かれる方については、本人自ら電話して頂くこともある。はがきや封書など必要物品は利用者とともに用意するよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居者が集まるホール、廊下にソファを用意し、好きなどでテレビを見たり話ができるように配置している。冷暖房等の温度調整・カーテンの開閉による日差しの調整を行っている。季節行事にかかわる作品を展示したりして生活感・季節感を取り入れている。トイレ等の混乱を招かないよう様々な言葉での表記を行っている。畳も設置している。</p> <p>(外部評価) ユニット入り口を入るとオール電化のアイランド式キッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられている。利用者は調理の音や匂いを感じながら、思い思いの場所でくつろぐことができる。訪問時はお気に入りの場所でくつろぐ人や医療マッサージ器を使用する利用者を見かけた。壁には節分のクラフト作品や行事写真が飾られていたり、めだかの水槽が置かれている。ベランダに置かれたプランターで野菜を栽培しており、階下にはデイサービス利用者と一緒に世話をしている菜園がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホール内・廊下にソファ・丸テーブルを配置し、利用者同士・家族との談話が持てる居場所を確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた生活用品を自由に持ち込んで頂き家庭的な雰囲気作りを心掛けている。また写真や趣味の物を飾ることで心地よく過ごしていただけるよう援助している。</p> <p>(外部評価) 居室にはエアコンと電動ベッド、収納棚、ナースコールが備えつけられている。利用者は自宅から整理ダンスやスタンドハンガー、テレビ、ラジカセを持ち込んで居心地よく過ごせるよう配置している。管理者はアルバムを持ち込むよう奨めており、分厚く思いでの詰まったアルバムを職員も見て利用者と一緒に懐かしんでいる。また、家族写真や日本人形等を飾ったり、日記帳やおセロゲーム、囲碁も置かれていて暮らしの様子が伝わってくる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活歴を把握し、利用者ができること・得意なことを行って頂き、自信を高めるよう努めている。トイレ・お風呂など明確に掲示し、混乱を招かないよう配慮している。ベランダ・他事業所への入り口を開放し自由に出入りできるようにしたり、手すり・安全な家具の配置を検討したりして自立した生活が送れるよう工夫している。</p>	